

よえもん

2016年5月

第 37 号

今月のことば



シリーズ
よえもん

村人の道案内



「論語」衛霊公第一五 書 澁田瑞穂さん

是を過ちと謂う

これ
あやま

過ちて改めざる

あやま
あらた

ある時、ひいおの侍が西近江路を通りました。先生のお墓が小川村にあることを聞いて、火田仕事をしている村人に道をたずねました。村人は喜んで道を案内してくれましたが、途中で「しばらくお待ち下さい」と自分の家に入り衣服をあらためました。侍ははじめ、その理由がわかりませんでした。お参りを終る段になって、村人の着がえた衣が先生を敬つてのことであることを悟りました。侍はその村人を先生の親類同様な、と思い、あらためてたずねると、村人は「いいえ、私は先生の身内の者ではありません。けれど、先生を敬う人は私ひとりではありません。この村の人はみな、先生を敬っています。そして、この村の人が親を大切に、兄弟仲良く平和に暮らしているのは、先生の教えのおかげなのです。そのことを私の親もつねづね言い聞かせてくれました。」と答えました。その答えに感心した侍は、「世間では先生のことを近江聖人と仰いでいるが、本当にそのとおりであることがわかりました。よくご案内して下さいました。」と厚くお礼を言、その場をあとにしたということです。



先生を敬う人は私ひとりではありません。この村の人はみな、先生を敬っています。そして、この村の人が親を大切に、兄弟仲良く平和に暮らしているのは、先生の教えのおかげなのです。そのことを私の親もつねづね言い聞かせてくれました。」と答えました。その答えに感心した侍は、「世間では先生のことを近江聖人と仰いでいるが、本当にそのとおりであることがわかりました。よくご案内して下さいました。」と厚くお礼を言、その場をあとにしたということです。

「過ちて改めざる 是を過ちと謂う」
「過ちても改めない。これはそれが過ちというものだ」という意味です。
やそこらつたり、まちがいに気がついたりした時に、すまじやう、これを改めなければなりません、どうも負けおしめをして改めるべきです。それに理をつけて自分の責任にしないという風にすまじやうではありません。それではいけないのです。

「過ちても改めないのが過ちである」
これは、非常にいい教訓です。

記念館だより



日頃より 藤樹舎様、藤樹書院・良知館様には、当館のご案内をはじめ広報活動などさまざまなご支援をいただき誠にありがとうございます。
また、澁田瑞穂さんには論語のことばの墨書を、中江道夫さんには季節ごとにフアンター植えの草花の貸与、中江章士さんには記念館周辺の落葉の清掃、上小川の女生の会には館内に冬らしいお花を生けていただきありがとうございます。
お早様で今年度もたくさんの方々のあか添えやあしづきに職員一同心より感謝しております。
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

記念館さんぽ



春の訪れとともに記念館のまわりでもハナズオウや藤が咲き、今も陽明園の紫蘭が見ごろとなっております。お散歩からぜひお越し下さいませ。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL・FAX (0740)-32-0330

